

小中一貫校における芝生管理組織についての提言



2015年3月7日 GP運営委員会

はじめに

2002年の校庭芝生化当初から芝生の維持管理を目的に活動を行ってきた和泉グリーンプロジェクト(GP)。和泉小学校の閉校とともにいったん、その歴史に幕を閉じることになります。

新校においても芝生管理活動を円滑に実施するために、環境や期待の変化を踏まえた新たな組織づくりが重要であると考えます。

この資料では和泉GPでの経験を踏まえて、新たな出発に向けての提言を行います。



芝生管理組織は必要なのか？

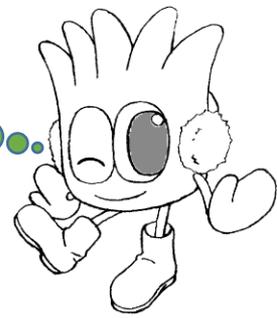
和泉GPでは芝生を守り育てる活動を通じて、子どもたちの健やかな成長や地域活性化のお手伝いをする事ができたと思っています。そしてそのことに対して多くの感謝の言葉を頂戴してきました。

一方で多くの保護者にとって実態がよくわかりにくいとか、好きでやっているのだから任せておけばいいとか、専門的すぎて近寄りにくいとか、様々な意見も耳にしました。

そもそも、新校においても芝生管理組織が必要なのでしょうか？



だから必要
なんだね！



存在意義を次のように考えます

これまで活動してきた経験から、芝生管理組織はやはり必要であると考えます。

①維持管理活動を継続的に行うための役割

- ✓ 計画の立案や毎週の芝刈りの運営
- ✓ 芝生に対する関心を高めるための取り組み

②ノウハウの蓄積と継承のための役割

- ✓ 芝生や芝刈りに関することに加えて、組織運営、イベントやキャンペーンの運営、PR/コミュニケーションなどのノウハウを蓄積、次の世代に継承していく

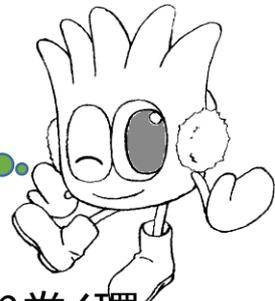
③地域、利用団体、芝生管理業者などとの融合の場としての役割

- ✓ 管理活動やイベントを通じて関係者が情報や体験を共有し一体となる場

(管理団体があることにより都からの補助金が支給されるというメリットもあります)



さまざまな
変化があり
そう！



芝生を取り巻く変化とそのインパクト

新校が開校してから校庭芝生が完成するにはおよそ1年を要しますが、芝生を取り巻く環境や期待の変化を想定しながら、組織づくりを進めておくことが、円滑なスタートのために大切であると考えます。主な変化とそのインパクトについて考えてみました。

	変化	インパクト
活用の高度化	質の高い教育活動に向けた芝生のいっそうの活用	それを意識した組織づくりと具体的な活動への期待
中学生の参加	中学生が芝生を利用。環境委員会を通じた運営側としての関わりも	活動をサポートすることへの期待 先駆者としての役割への期待
規模の拡大	児童・生徒数拡大による、管理面と運営面での難易度の上昇	日常の管理やキャンペーン実施での工夫
一層の多様化	保護者意識の多様化や関係者の多様化が進展	多様性を受け入れつつ一体化を図る必要性

芝生管理組織のあり方への提案

新組織のあり方を考える際には、目的を再確認した上で、人材と活動内容に関して検討することが望ましいと考えます。前述の変化を踏まえて、目的、人材、活動内容を検討する上での課題を整理しました。

目的

従来の3つの目的に加えて。。。
児童・生徒の成長の支援や地域との関係づくりへの注力

人材

保護者意識や関係者が多様化する中で。。。
多様性を受け入れながら学校・地域が一体となって芝生を守り育てることを目指した取り組み

活動内容

芝生の維持管理に加えて。。。
教育活動へのいっそうの支援
双方向コミュニケーションへの取り組み
運営・管理への取り組み

芝生管理組織のあり方への提案（続き）

目的

従来の3つの目的に加えて、児童・生徒の成長の支援や地域との関係づくりさらに注力。小中一貫校の全面芝生化の先駆者として、経験やノウハウを情報発信

☆従来の3つの目的※

- ①児童が心豊かにたくましく育つために、杉並和泉学園の環境をよりよくする
- ②学校の緑化等を通じて児童の成長を温かく支援する活動を確立する
- ③緑の育成等に携わる活動を通して、「ふるさと新泉・和泉」をめざし、学校・家庭・地域の連携を図る

※新校の状況に合わせるために一部、内容を修正してあります



- ★児童・生徒の成長の支援や地域との関わりをいっそう注力
- ★先駆者として経験やノウハウを情報発信。小中一貫校の魅力アップに貢献

⇒ 芝生の管理が中心であった目的を芝生の活用や魅力の伝達にシフト



芝生管理組織のあり方への提案（続き）

人材

保護者意識や関係者が多様化する中で、多様性を受け入れながら学校・地域が一体となって芝生を守り育てることを目指した取り組みが求められます

- 1 アイディア出しや実行力の強化のために → 現役保護者を主体とした組織作りと、その参画をうながすための取り組み
- 2 保護者意識の理解とそれに基づく活動のために → P T A 会員 = G P 会員であることの活用、芝生担当 / 役員との連携
- 3 地域や利用団体とのいっそうの協力のために → 地域や利用団体のキーパーソンとの連携
- 4 芝生環境の早期の安定化のために → 専門家による技術的裏づけ

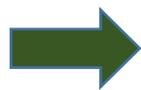


芝生管理組織のあり方への提案（続き）

活動 内容①

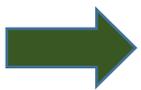
基盤となる芝生の維持管理に加えて、教育活動へのいっそうの支援や積極的なコミュニケーションが期待されます

1 教育活動へのいっ
そうの支援



- ✓ 環境タイム等での活動をサポート
- ✓ 中学校で発足予定の「環境委員会」サポート
- ✓ 芝生理解のためのおとな向け勉強会の実施

2 双方向コミュニケー
ションへの取組み



- 情報の受発信のためにこれまでの活動の継続が有効
- GP通信、HP、FB、ツイッターの活用
 - 告知物等におけるロゴ/キャラクターの活用
 - コンサート等イベントの実施による一体感の醸成

芝生管理組織のあり方への提案（続き）

活動
内容②

円滑な運営のためには基本的な活動の実行も重要と思われます

3

基本的な活動（会議体、
記録、情報共有）



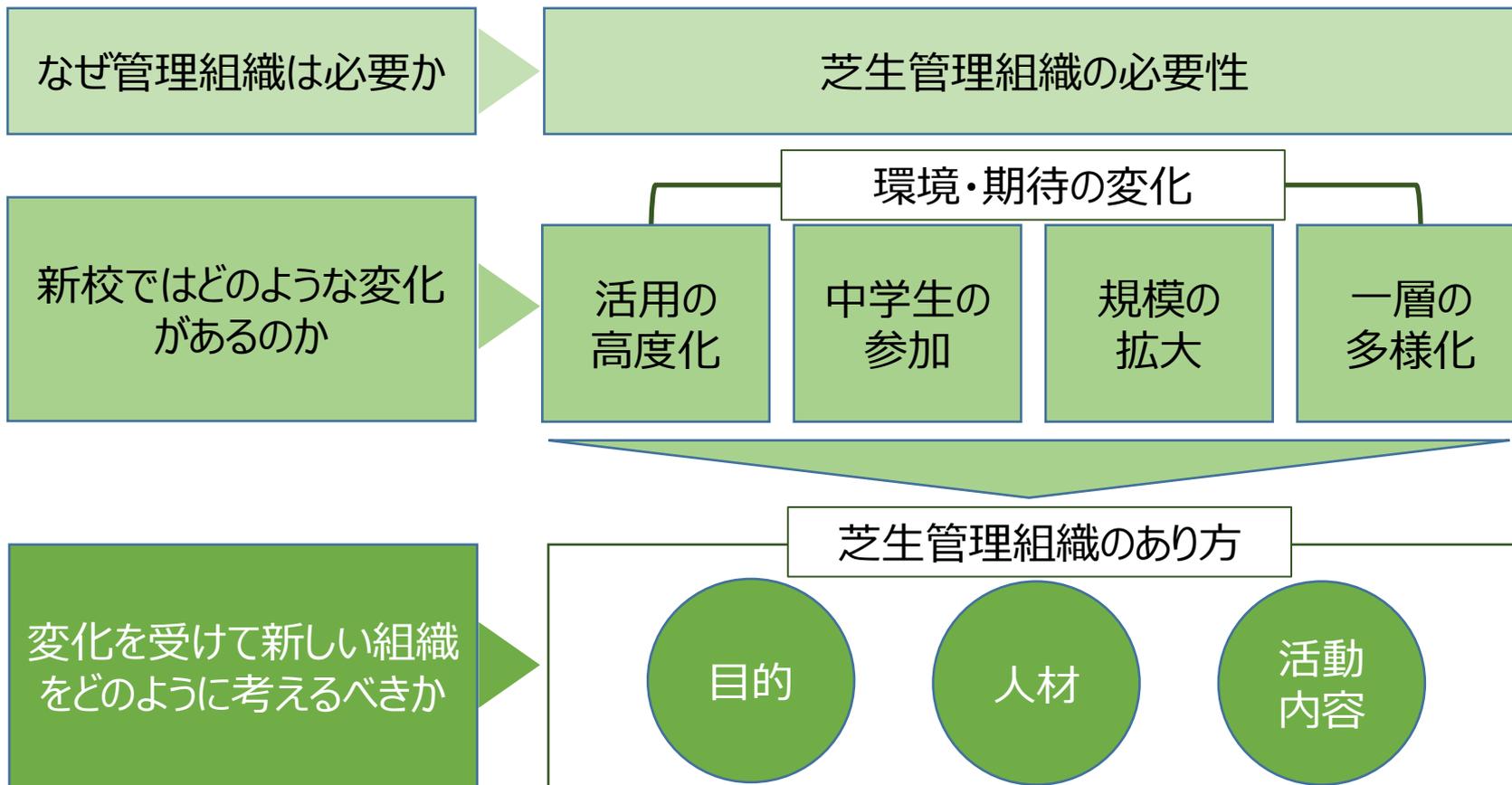
健全かつ継続的に活動するための基本的な要件

- ・ 会議体の定期的な開催
- ・ 議事録の発行や資料のアーカイブ化
- ・ 適正な会計処理・会計監査

これからも校長室に
出入りできるような
関係でいたいな□



芝生管理組織のあり方への提案（まとめ）



変化を受けて新しい組織をどのように考えるべきか

→芝生はあくまでツール。それを教育や地域の育成にどのように活かすかを考え実行する組織。「芝生を育てているのではなく、地域を育てている」





長年に渡りありがとうございました。
これからもよろしくお願いします

